

第35回 我孫子市放射能対策会議 会議概要

- 【場 所】 市長応接室
- 【日 時】 平成25年4月12日（金）15：00～
- 【出席者】 市長、副市長、教育長、水道局長、総務部長、企画財政部長、市民生活部長、健康福祉部長、子ども部長、環境経済部長、環境経済部参与、都市部長、建設部長、健康づくり支援課長、子ども支援課長、保育課長、クリーンセンター長、商業観光課長、手賀沼課長、農政課長、道路課長、下水道課長、公園緑地課長、水道局工務課長、教育委員会総務課長、学校教育課長、放射能対策室長

（報告事項）

（1）放射線量測定結果及び放射能に関する対応について

（各課）

- ・ 特に無し。

（2）第一回千葉県指定廃棄物処理促進市町村長会議について

（クリーンセンター）

- ・ 4月10日に第1回千葉県指定廃棄物処理促進市町村長会議が開催され、市長が出席してきた。54市町村のうち首長が出席したのが34市町村、代理出席が20市町村であった。配布資料については、来週、環境省のHPで閲覧できるようになる。
- ・ 4月22日に2回目の有識者会議が開催され、5月には3回目の有識者会議が開催される予定である。3回目の有識者会議の後に、2回目の千葉県指定廃棄物処理促進市町村長会議の開催が予定されている。市町村長会議と平行して、担当部課長による会議の開催も予定されている。

（3）私立高校・大学の除染について

（放射能対策室）

- ・ 2月～3月にかけて私立高校・大学の詳細測定を実施した。敷地を30メートルメッシュで分割して測定をした結果、平均線量が基準値を超えたのは中央学院大学だけであった。
- ・ 川村学園女子大学は、メッシュ測定で86点測定し、31点が基準値以上であった。平均空間線量は0.216 $\mu\text{Sv/h}$ であった。局所的に高い場所の測定では、雨水枡241点を測定し、基準値以上が70点あったが、芝生の付近の雨水枡の測定値が高いという状況で、雨水枡自体はそれほど汚染されていないと考えられる。大学との協議の結果、平均線量が基準値未満のため、除染は行わないという結論になった。
- ・ 中央学院高校は、メッシュ測定で36点測定し、1点が基準値以上であった。高校と

の協議の結果、除染は行わないという結論になった。

- ・ 我孫子二階堂高校は、メッシュ測定で31点測定し、9点が基準値以上、平均値は0.208 $\mu\text{Sv/h}$ であった。校庭の一部に比較的放射線量が高い場所があったため、この場所については、環境省と協議をした上で対応を決める。
局所的に高い場所の測定では、32点測定し、基準値以上の測定点が14点。高校との協議の結果、14点のうち雨水枡の影響で放射線量が高くなっていると思われる10点について除染を実施する。
- ・ 中央学院大学は、メッシュ測定で24点測定し、8点が基準値以上であった。芝生の部分の放射線量が高いために、8点しか基準値を超えていないにもかかわらず、平均値で0.233 $\mu\text{Sv/h}$ と基準値を超えている。大学との協議の結果、大学側としては出来る範囲で除染をやってもらいたいとのことであったため、キャンパス内については環境省の補助金の範囲内で除染を実施する。
- ・ 陸上競技場は平均で基準値を超えているが、河川区域のなかにあるため、国の担当者と協議を行い除染の方針を決める。サッカー場、野球場についても、平均で基準値を超えているが、人工芝のため補助金で対応できる除染方法がないということで、引き続き大学と協議をしていく。

(4) 住宅の除染について

(放射能対策室)

- ・ 平成24年度に妊婦・高校生以下の子どもがいる住宅の除染の申請を受け付け、除染対象727件のうち、これまで501件の除染が完了した。501件の内訳は、第1次、第2次募集で申請があった妊婦・小学生以下の子どもがいる住宅が494件、第3次募集で申請があった高校生以下の子どもがいる住宅のうち、平均値で基準値を超えた住宅が8件である。このうち1件については敷地面積が広く、除染が間に合わないため、7件の除染を実施した。
- ・ 第1次、第2次募集で除染を実施していない住宅約50件と、第3次募集で除染を実施していない住宅182件の除染については、来週契約をして5月末までに除染を完了する予定。
- ・ 第4次募集として、4月1日～4月30日の期間で、子どもがいるいないにかかわらず、全ての住宅を対象に除染の申請を受け付ける。11日現在、394件の申請があり、このうち小学生以下が147件、中高生が29件、一般が218件という状況である。
- ・ 1月の市議会放射能対策特別委員会で小・中学生の保護者にPRしてはとの意見があったので、除染の案内のチラシを作成し、小・中学校の全生徒に配布した。そのため、小・中学生の申し込みが増えてきている。
- ・ 現在までの申請状況を踏まえると、第4次募集は900件程度の申請があり、このうち400件程度が除染の対象になると想定している。除染は6月から始めて、9月末に完了したいと考えている。
- ・ なお、申請をし忘れる方や転入者の方を考慮し、6月発行の放射能対策ニュースで、

再度募集を行う予定。それ以降に申請があったものについては、柔軟に対応することとするが、環境省に補助金を請求する関係で、来年の2月末を期限とする。

(5) 平成24年度放射線量低減対策特別緊急事業費補助金の実績報告について
(放射能対策室)

- ・ 最終的な実績報告額は115,016,268円で、補助金申請額328,000,000円の3分の1程度になった。除染に要した経費については、補助金が確定後、差額分を震災復興特別交付税で全額充てられるように調整をしたいと考えている。

(6) 手賀沼公園の除染について
(公園緑地課)

- ・ 平成25年度は、街区公園56公園の復旧と7公園の除染を実施する。
- ・ 3月に市内全公園のモニタリング測定を実施した結果、大規模公園では手賀沼公園、高野山桃山公園、布佐南公園の3公園が基準値を超えていたことから、3公園を20mメッシュに切つての詳細測定を3月に実施した。
- ・ 手賀沼公園は、69地点で測定を実施し、10地点で基準値を超えていた。
- ・ 手賀沼公園は、平均値では基準値を超えていないため国の補助対象にはならないが、利用者が多いことから、除染を検討したいと考えている。3つのブロックに分割して順次行えば、3ヶ月ほどで終わるのではないかと考えている。
- ・ 8月に開催される手賀沼花火大会に支障がないようにするには、5月の連休後に発注する必要がある。
- ・ 手賀沼公園の除染については、10mメッシュでの詳細測定を早急を実施し、再度協議することとした。
- ・ 高野山桃山公園は、国の補助対象で除染を実施したいと考えている。
- ・ 布佐南公園は、表土の削り取りという方法は取らずに、覆土をするという方法で除染を実施したいと考えている。

(7) 手賀沼の放射性物質モニタリング調査について
(手賀沼課)

- ・ 環境省が流入河川を1月に、沼内を12月及び2月に放射性物質モニタリング調査を実施した。
- ・ 水質については、全地点においてヨウ素及びセシウムは検出されていない。
- ・ 流入河川の底質の測定結果について、大堀川の北柏橋ではセシウムが4200ベクレル/kgで、ほとんど横ばいの状況である。
大津川の上沼橋ではセシウムが14,200ベクレル/kgとかなり上がっている状況である。昨年11月5日の結果ではセシウムが380ベクレル/kgと下がっているが、サンプルの取り方によって、測定結果が大きく変わっていると考えられる。
- ・ 沼内の底質の測定結果について、根戸下では24年6月の測定結果からほとんど横ばいが続いている状況である。放射性物質が沼内に流れ込んできている状況には無いと

思われる。

- ・ 流入河川の周辺環境の測定結果について、大堀川の北柏橋ではセシウム濃度、空間線量、共に横ばいの状況である。大津川の上沼橋ではセシウム濃度は横ばいで空間線量は下がってきている。
- ・ 手賀沼の周辺環境の測定結果について、根戸下ではセシウム濃度、空間線量共に横ばいの状況である。

(8) タケノコの放射性物質について

(農政課)

- ・ 今年度、千葉県が重点的にタケノコの検査を実施している。
- ・ 我孫子市も、独自に検査を行っており、積極的にタケノコの検査を受けるように、全農家宛に3月14日付で通知を出した。
- ・ 昨年の同時期に実施したタケノコの検査では、出荷制限の100ベクレル/kgを超えるものが多く出ていたが、今年は全体的に数値が低くなっている傾向がみられる。ただし、同じところで採れたタケノコで、去年の検査では100ベクレル/kgを下回っていたものが、今年度の検査で100ベクレル/kgを上回ったりしているなど、まだ安定はしておらず、出荷制限を解除していくような状況ではないと思われる。
- ・ 千葉県が実施した検査で、県南地域のタケノコを多く検査しているが、全体の傾向としては数値が下がってきている状況にある。千葉県が、来週16日にタケノコの出荷制限指示を受けている自治体を対象に緊急対策会議を行うので、担当者を派遣して対応を考えていきたい。
- ・ 東京電力への損害賠償請求の手続きをサポートするために、東京電力に来てもらい、来週15日に農家を対象とした説明会を実施する。

(商業観光課)

- ・ 3月下旬から4月11日までの間に、市民が持ち込んだ18検体のタケノコの検査を実施した。そのうち市内で採取されたものは13検体で、検査の結果、出荷制限の100ベクレル/kgを超えたものが1検体、50ベクレル/kgを超えたものが7検体、50ベクレル/kg以下が4検体、検出せずが1検体であった。タケノコは全て、市の西側地区のもので採取されたものである。

(その他)

(保育課)

- ・ 屋上の放射線量調査で、空間線量が高さ5cmで0.243 μ Sv/h、表面汚染が1030 cpmと比較的数値が高かった緑保育園について、昨年度から進めていた大規模改修に併せて除染を実施した。その結果、空間線量が高さ5cmで0.137 μ Sv/h、表面汚染が111 cpmと数値は下がった。